

安心・安全な離島生活を送るには

防災についての課題

今回フィールドツアーとして式根島を訪れた中で、観光客の防災について課題を感じた。島に住む方々は、普段生活している中で海拔の案内を見ていたり、長年住んでいることで高低感覚を持っていたりと、避難という場面において考えられる障壁が少ない。しかしながら、観光客が実際に災害に遭ってしまった場合において、指定避難所や海拔の高い位置まで迅速に動くことが想定できなかった。実際に式根島でサイクリングをしている中で、私は今回フィールドワークを前提として街並みを見ていた為、海拔の案内が書かれた消火栓や、新島村役場が出している式根島地区避難場所案内所の案内を注目して見ていた。しかしながら観光客が観光の中でリスクを想定し、それらの情報を自ら収集することや、いざ災害に遭った時にそれらの情報を活用することが現実的ではないように考えられた。

防災についての提案

まず、指定避難所や海拔の高い場所についての案内を、観光客用に配布していたマップに記載し、そのマップを見れば、いざという時にいち早く情報を掴むことができるのではないかと考えた。海拔の高さ含め、上空から見た島のイラストと共に式根島の紹介がされていたが、観光という面でも色分けなどによる高低差の表記は必要であると感じた。それぞれの観光スポットでは階段をたくさん登り降りする必要がある場所も多く、知らずに訪れてかなり体力を奪われてしまった。式根島には病院がない中で、現段階における式根島のピーク時が夏であることもあり、熱中症や脱水症状になってしまった際のリスクも考えられる為、防災と観光のどちらの観点でもマップへの高低や海拔の高さの表記の需要は高いであろうと考えた。また、式根島では大型客船やジェットで島にたどり着いた後、宿の方々の送迎車で宿に向かうことがほとんどであると伺った。その為、現地の方に触れ合う機会が他の観光地より比較的多く、マップが観光客の手に渡りやすいことより活用もされやすいと考えた。また、今回のフィールドツアーでは、google map をメインで利用し自転車を走らせた。すると、車は走れない上に、本来であれば自転車で走ることも少し危険であるような細道を案内され、今回は怪我人や転倒者も出なかったが、観光客の安心・安全という面では少しリスクがあるように思える。そのためにどのルートを使うのが最適であるのかをマップで提示するのは、最速ルートかつ安全に巡ることができるという点で、観光客には高いタイムパフォーマンスと安全を提供できるであろうと考えた。

式根島で安心安全な生活を送るには

住み慣れている島の方々の防災よりかは、実際に災害が起きた時に、観光客と島の住民の方々が共生しながら安心・安全に生活を過ごしていくことや、観光客が式根島を巡る中で安全に巡っていくかについて考えた。